

I. 2019年3月期 第2四半期 決算概要

執行役員 財務部長
山田 龍彦



東海旅客鉄道株式会社
2018年10月30日

損益計算書(連結)

(億円)

	2018年3月期 2Q累計 A	2019年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)
営業収益	8,995	9,181	+185
営業費	5,276	5,271	△5
営業利益	3,718	3,909	+191
営業外損益	△385	△391	△5
経常利益	3,332	3,518	+185
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,208	2,447	+238

セグメント情報(連結)

(億円)

		2018年3月期 2Q累計 A	2019年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)
営業収益		8,995	9,181	+185
	運輸業	7,098	7,251	+153
	流通業	1,243	1,275	+32
	不動産業	379	389	+10
	その他	1,048	956	△92
営業費		5,276	5,271	△5
営業利益		3,718	3,909	+191
	運輸業	3,538	3,716	+178
	流通業	42	43	+0
	不動産業	90	106	+15
	その他	54	41	△12

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

損益計算書(単体)

	2018年3月期 2Q累計 A	2019年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)
営業収益 (運輸収入)	7,115 (6,783)	7,270 (6,932)	+155 (+149)
営業費	3,561	3,535	△25
人件費	896	904	+8
物件費	1,504	1,491	△13
動力費	196	210	+13
修繕費	428	403	△24
業務費	879	877	△2
租税公課	202	208	+6
減価償却費	958	930	△27
営業利益	3,553	3,734	+180
経常利益	3,178	3,339	+161
四半期純利益	2,222	2,346	+124

(億円)

Ⅱ. 2019年3月期 業績予想

Ⅲ. 主な施策展開

代表取締役 副社長
総合企画本部長
巢山 芳樹



東海旅客鉄道株式会社
2018年10月30日

輸送状況

■「のぞみ10本ダイヤ」を活用して、需要に合わせた、より弾力的な列車設定に努め、多くのお客様にご利用いただいた

のぞみ本数
(片道最大運転本数/1時間)

9

10

実運転本数

336

342

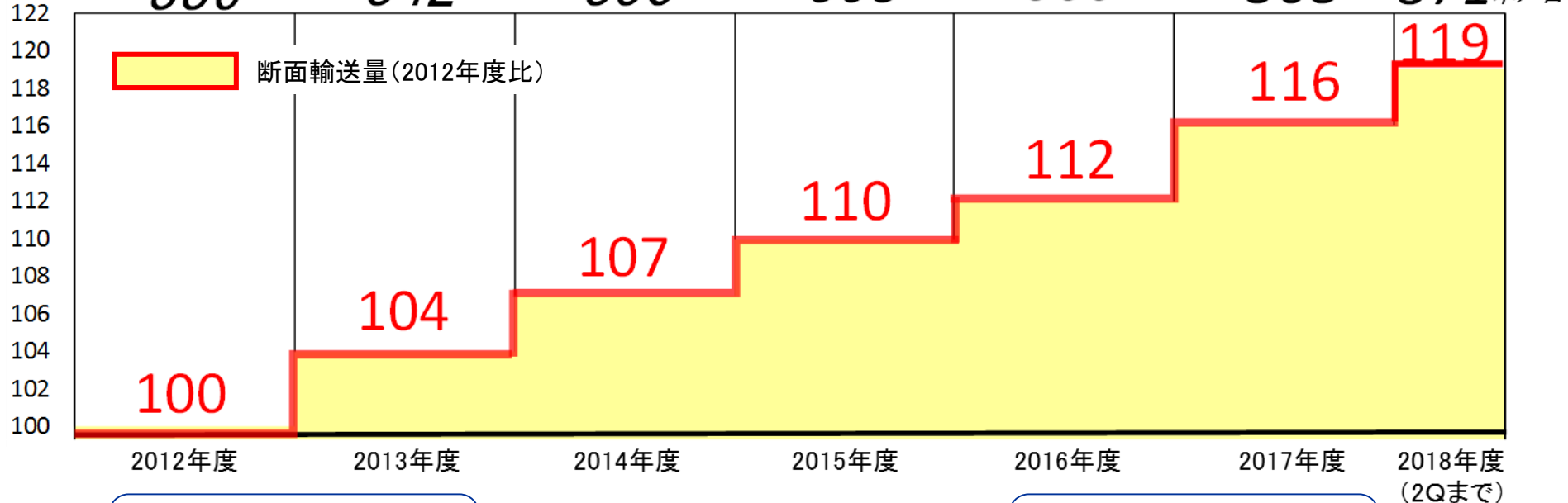
350

358

365

368

371本/日



【実運転本数】

2012年度比 **+10%**

※過去最多運転本数：
434本 (本年8/10)

【断面輸送量】

2012年度比 **+19%**

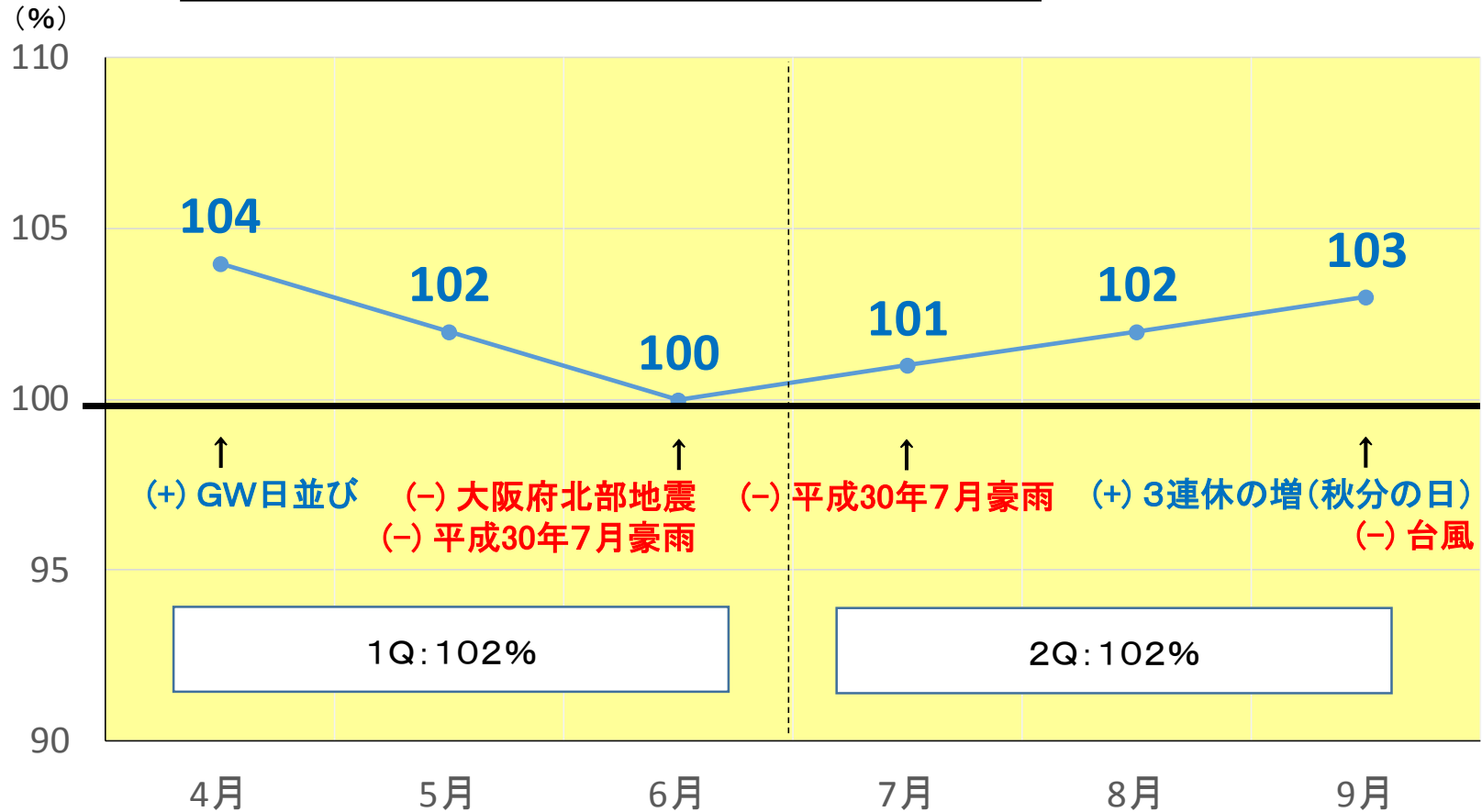
■2020年春の全列車最高速度285km/h運転化に向けて、利便性・安定性をさらに向上させるダイヤを検討中

輸送状況

ビジネス・観光ともに堅調に推移

※断面輸送量(東海道新幹線、東京口)

2018年度 上期(実績) 前年比 **102%** (平日102%、土休日102%)



上期の実績を反映し、通期予想を上方修正

※運輸収入(新幹線・在来線計)

2018年度(見通し) 前年比 **101.4%** (上期実績102.2%、下期予想100.5%)

2019年3月期 通期業績予想(単体)の修正

(億円)

	2018年3月期 実績 A	2019年3月期 前回予想 B	2019年3月期 今回予想 C	対 実績 (C-A)	対 予想 (C-B)
営業収益 (運輸収入)	14,274 (13,583)	14,380 (13,690)	14,460 (13,770)	+185 (+186)	+80 (+80)
営業費	8,021	8,070	8,070	+48	—
人件費	1,796	1,800	1,800	+3	—
物件費	3,820	3,910	3,910	+89	—
動力費	391	430	430	+38	—
修繕費	1,454	1,490	1,490	+35	—
業務費	1,973	1,990	1,990	+16	—
租税公課	418	420	420	+1	—
減価償却費	1,986	1,940	1,940	△46	—
営業利益	6,252	6,310	6,390	+137	+80
経常利益	5,476	5,520	5,600	+123	+80
当期純利益	3,844	3,860	3,920	+75	+60

2019年3月期 通期業績予想(連結)の修正

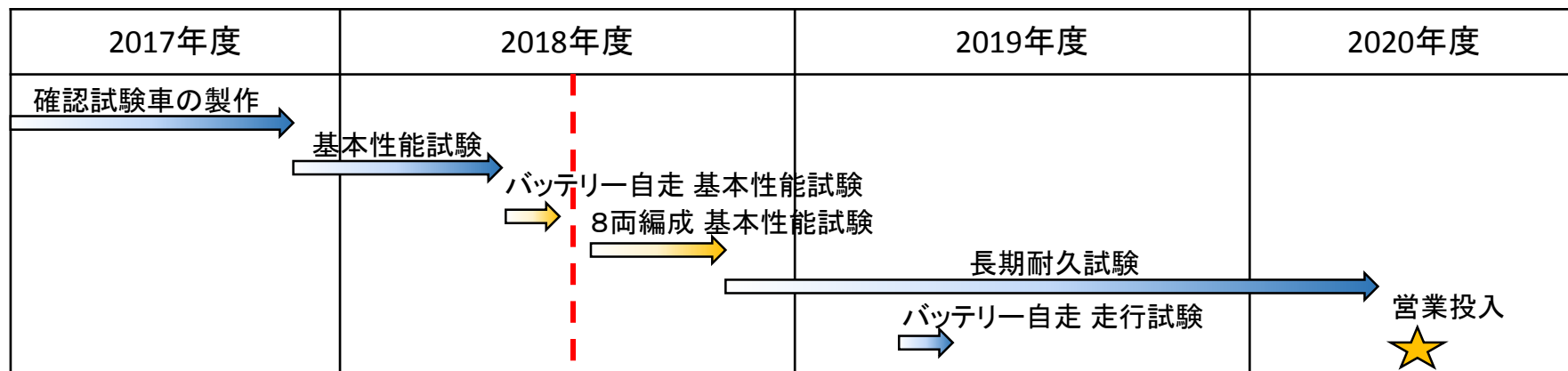
(億円)

	2018年3月期 実績 A	2019年3月期 前回予想 B	2019年3月期 今回予想 C	対 実績 (C-A)	対 予想 (C-B)
営業収益	18,220	18,440	18,550	+329	+110
運輸業	14,240	14,350	14,430	+189	+80
流通業	2,553	2,580	2,590	+36	+10
不動産業	780	810	810	+29	—
その他	2,616	2,590	2,610	△6	+20
営業費	11,600	11,810	11,820	+219	+10
営業利益	6,620	6,630	6,730	+109	+100
運輸業	6,230	6,290	6,370	+139	+80
流通業	82	80	80	△2	—
不動産業	185	180	180	△5	—
その他	132	80	100	△32	+20
営業外損益	△784	△790	△790	△5	—
経常利益	5,835	5,840	5,940	+104	+100
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,955	4,040	4,110	+154	+70

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

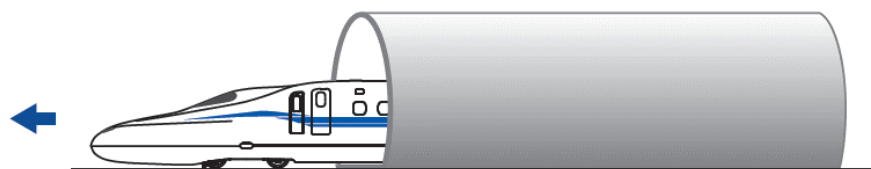
N700S確認試験車による走行試験

■ 走行試験スケジュール

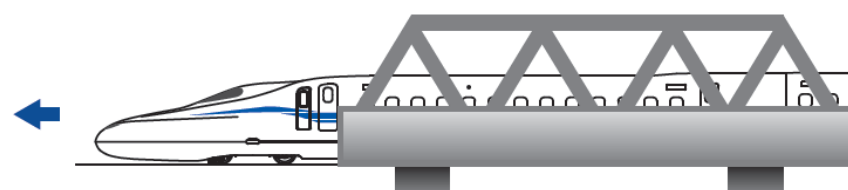


■ バッテリー自走による基本性能試験 → 実施済み

○地震発生時などの長時間停電においても、低速での自力走行が可能



トンネルからの脱出



橋梁からの脱出

■ 8両編成の基本性能試験 → 10月より実施

○様々な編成両数に変更可能である「標準車両」としての性能を確認中

2020年度に新型車両「N700S」を営業投入予定

ネット予約・チケットレス乗車サービスの拡大

EX予約
PRESS
ヘビーユーザー

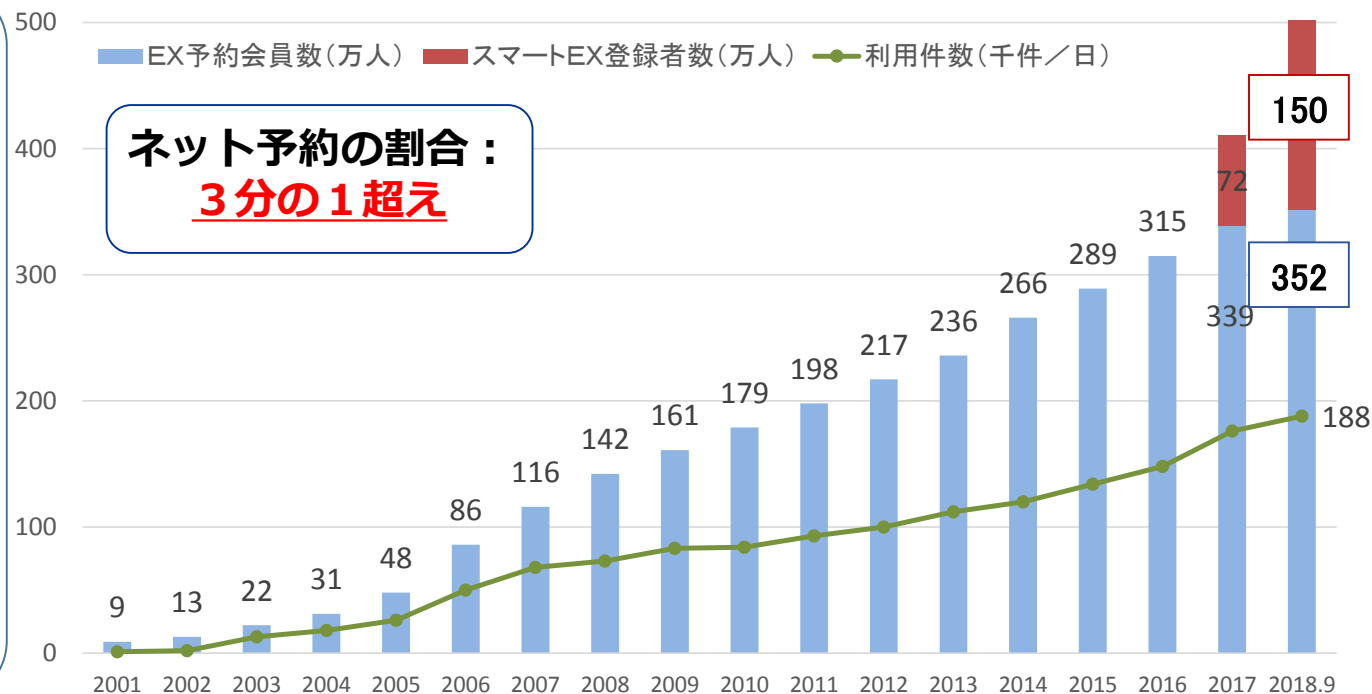
+

スマートEX

ライトユーザー・訪日外国人



ネット予約・
チケットレス乗車
の拡大



「スマートEX」1周年記念キャンペーンの展開

■「EX早特21」特別価格 ～いつもよりさらに1,000円OFF！～ ※発売完了

- ・ 乗車日の21日前までの予約で、「のぞみ」号普通車指定席を最もお得に利用いただける早特商品

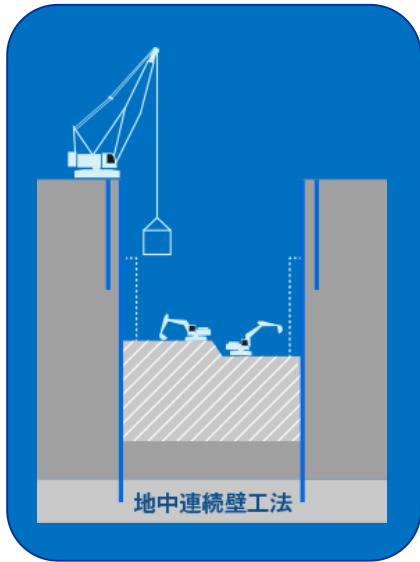
■「スマートEX THE席くじ」

- ・ 期間中に「スマートEX」で指定席を一区間5,000円以上(1名片道あたり)利用した会員様を対象に、選んだ座席がくじになり、抽選で豪華景品が当たるプレゼントキャンペーン

中央新幹線計画 工事の進捗状況

■ 都市部のトンネル工事の手順

立坑(非常口)の掘削



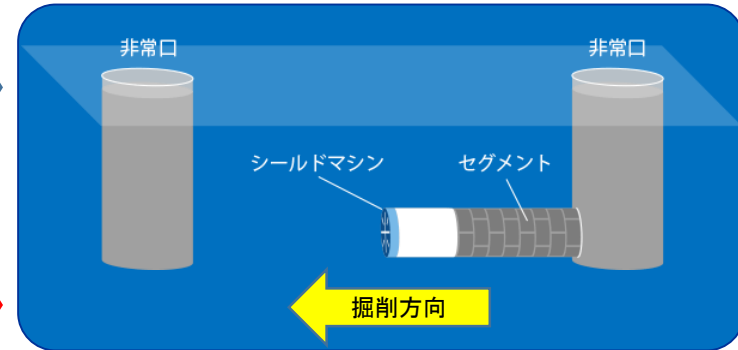
2018年4月～ 順次契約締結

シールドマシン製作等

2018年10月17日 国土交通大臣より認可

大深度地下使用の認可

地下トンネルの掘削



・立坑(非常口)から立坑(非常口)へ向けてシールドマシンによりトンネルを掘削

※ シールド工法の特長

- ・ 数多くの実績があり、都市部などの地上部が開発されている箇所、河川下などの地下水位が高い箇所でも、安全にトンネルを造ることが可能
- ・ 止水性が高く、漏水の恐れがない。また、地上における騒音・振動は非常に小さい

■ 発進立坑の状況

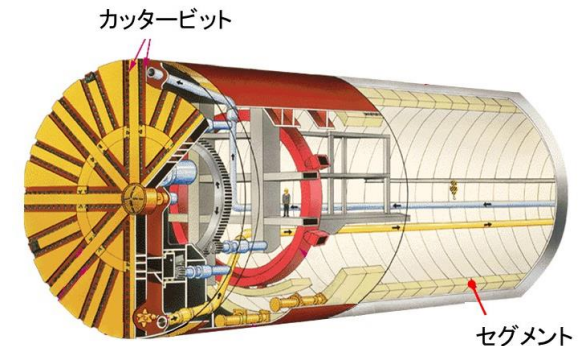
・北品川非常口



・名城非常口



■ シールドマシン(イメージ図)





■ 主な観光素材



○名古屋城本丸御殿
閉園後の特別鑑賞



○豊橋手筒花火
DC特別放揚

■ 愛知DCフリーきっぷ

- 【概要】 愛知県内全鉄道路線及び主な観光地へのバス路線が2日間乗り放題
- 【対象者】 旅行商品やEXサービスの早特商品を利用して愛知県内に旅行されたお客様
- 【特典】 愛知県内の約40の観光施設等の入館料等が割引

■ 武将隊列車

- ・「快速未来クリエイター☆信長」等の観光列車をラッピング車両にて運行

■ その他、当社グループの取組み

- ・300Xなどの車両特別公開(リニア鉄道館)
- ・愛知DC記念弁当発売
- ・愛知DC限定のお土産開発
- ・各種店舗での愛知フェア など



本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。